漫画の描き方、歴史学ぶ

湯前小

インク、Gペン プロの道具体験

湯前町の湯前小4年生30人が2日、専門家による漫画の授業を受け、歴史や道具の使い方などを学んだ。

町は漫画を生かしたまちづくりを進めており、豊かな発想力を育てようと定期的に授業を開いている。今回は熊本市の崇城大芸術学部の木下裕士准教授(40)を講師に招いた。

木下准教授は、鳥獣戯画や北斎漫画などの歴史や、手塚治虫や北沢楽天ら漫画の大家を紹介。「日本で一番古い漫画は研究者によって定義が異なる」とした。

児童はプロの漫画家を使うGペンを手にし、絵描きを体験。ペン先をインクに浸し、会話などを囲む「吹き出し」や強調に用いる集中線などに四苦八苦した。高橋佳奈さんは「思うように描けなくて、プロの漫画家はすごいなと思った」と感心していた。

この日、湯前中の生徒も、木下准教授から漫画特有の表現方法などを学んだ。

(井田真太郎)